2026 年 10 月 4 日

主日礼拝

礼拝讃美歌⇒428 番（SK 姉）
『恵み深き御声も手』

聖書⇒コヘレトの言葉 12 章 1 節（SK 兄）
『青春の日々にこそ、お前の創造主に心を留めよ。
苦しみの日々が来ないうちに。
「年を重ねることに喜びはない」と／
言う年齢にならないうちに。』

聖書⇒詩編 78 編 4~8 節
『子孫に隠さず、後の世代に語り継ごう／
主への賛美、主の御力を／
主が成し遂げられた驚くべき御業を。
主はヤコブの中に定めを与え／
イスラエルの中に教えを置き／
それを子孫に示すように／
わたしたちの先祖に命じられた。
子らが生まれ、後の世代が興るとき／
彼らもそれを知り／
その子らに語り継がなければならない。
子らが神に信頼をおき／
神の御業を決して忘れず／
その戒めを守るために
先祖のように／
頑な反抗の世代とならないように／
心が確かに定まらない世代／
神に不忠実な霊の世代とならないように。』

聖書⇒マタイによる福音書 22 章 37 節
『イエスは言われた。「『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2 章 1~5 節（KH 姉）

『さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。この世を支配する者、かの空中に勢力を持つ者、すなわち、不従順な者たちの内に今も働く霊に従い、過ちと罪を犯して歩んでいました。わたしたちも皆、こういう者たちの中にいて、以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、――あなたがたの救われたのは恵みによるのです――』

礼拝讃美歌⇒476 番

『いかなる恵みぞ』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 10 章 13 節（KT 姉）

『あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 15 章 1~5b、11~13 節

『「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。わたしにつながっていながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。わたしにつながっていなさい。わたしもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていなければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていなければ、実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。

これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 10 章 2~4、9~11 節

『わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証ししますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。キリストは律法の目標であります、信じる者すべてに義をもたらすために。

口でイエスは主であると公に言い表し、心で神がイエスを死者の中から復活させられたと信じるなら、あなたは救われるからです。実に、人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。聖書にも、「主を信じる者は、だれも失望することがない」と書いてあります。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒414 番（KH 兄）
『いとも畏し』

《パン裂き》

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 11 章 23~26 節（KH 兄）
『わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。』

（式）

礼拝讃美歌⇒142 番
『渡されたもう』

《建徳》

聖書⇒ルカによる福音書 10 章 27 節（KT 姉）
『彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 10 章 2~3 節
『わたしは彼らが熱心に神に仕えていることを証ししますが、この熱心さは、正しい認識に基づくものではありません。なぜなら、神の義を知らず、自分の義を求めようとして、神の義に従わなかったからです。』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 6 章 11~12 節

『悪魔の策略に対抗して立つことができるように、神の武具を身に着けなさい。わたしたちの戦いは、血肉を相手にするものではなく、支配と権威、暗闇の世界の支配者、天にいる悪の諸霊を相手にするものなのです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 10 章 31 節

『だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 1 章 18~20 節

『不義によって真理の働きを妨げる人間のあらゆる不信心と不義に対して、神は天から怒りを現されます。なぜなら、神について知りうる事柄は、彼らにも明らかだからです。神がそれを示されたのです。世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。』

聖書⇒ヘブライ人への手紙 12 章 4~8 節

『あなたがたはまだ、罪と戦って血を流すまで抵抗したことがありません。また、子供たちに対するようにあなたがたに話されている次の勧告を忘れています。

「わが子よ、主の鍛錬を軽んじてはいけない。
主から懲らしめられても、／
力を落としてはいけない。
なぜなら、主は愛する者を鍛え、／
子として受け入れる者を皆、／
鞭打たれるからである。」

あなたがたは、これを鍛錬として忍耐しなさい。神は、あなたがたを子として取り扱っておられます。いったい、父から鍛えられない子があるでしょうか。もしだれもが受ける鍛錬を受けていないとすれば、それこそ、あなたがたは庶子であって、実の子ではありません。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 1 章 7 節

『あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが苦しみを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。』

聖書⇒創世記 1 章 26~27 節（KH 兄）

『神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。』

聖書⇒イザヤ書 5 章 4 節

『わたしがぶどう畑のためになすべきことで／

何か、しなかったことがまだあるというのか。
わたしは良いぶどうが実るのを待ったのに／
なぜ、酸っぱいぶどうが実ったのか。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 15 章 45 節
『「最初の人アダムは命のある生き物となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となったのです。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 19 節
『被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。』

礼拝讃美歌⇒238 番（KH 兄）
『天地造りて』

《建徳要旨》